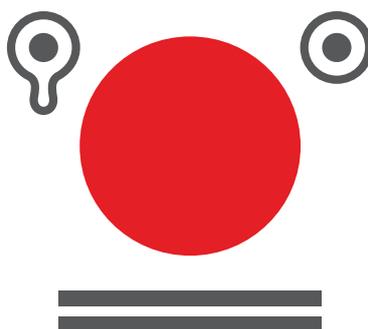


平成25年度食品廃棄物対策環境整備

商慣習等の改善による食品廃棄物等の発生抑制の推進  
報告書



NO-FOODLOSS PROJECT

平成26年3月

バイオマス資源総合利用推進協議会



## 内容

1. 事業の概要 .....	1
(1) 事業の目的 .....	1
(2) 事業の内容 .....	1
2. 商慣習の改善：食品ロス削減のための商慣習検討ワーキングチームについて .....	2
(1) 目的 .....	2
(2) 検討内容 .....	2
(3) 実施体制 .....	2
(4) 検討経過 .....	4
(5) 検討成果：平成25年度食品ロス削減のための商慣習検討WTとりまとめ .....	7
3. パイロットプロジェクトの効果の把握について .....	12
(1) 目的 .....	12
(2) 実施内容 .....	12
(3) パイロットプロジェクト参加企業（35社） .....	13
(4) 実施結果 .....	14
4. シンポジウムの開催について：	
食品ロス削減シンポジウム「食べものに、もったいないを、もういちど。」 .....	24
(1) 開催趣旨 .....	24
(2) 開催概要 .....	24
(3) 開催結果（アンケート結果） .....	28
5. 参考資料 .....	31



## 1. 事業の概要

### (1) 事業の目的

本事業の目的は企業の枠を超えた商慣習等の改善に関する調査・検討、及び消費者に対する意識喚起を行うことで、食品廃棄物等の発生抑制を推進することである。

現在、世界の食料生産量の 1/3 にあたる 1/3 億トンの食料が毎年廃棄され、世界の穀物需給が逼迫する中、食品ロスの削減は世界的に大きな課題となっている。「もったいない」という言葉の発祥の地である我が国においても、食品ロスは年間 500～800 万トン（事業系 300～400 万トン、家庭系 200～400 万トン）発生していると推計されている。この食品ロス発生の実態は、規格外品、返品、売れ残り、食べ残し、過剰除去、直接廃棄などと多様であり、食品の流通現場で食品ロス発生の原因となりうる商慣習が存在するが、食品ロス削減という観点から可能な限りこれを見直し、経済的ロスを経済成長につなげていく必要があり、製・配・販各社の壁を越えつつ、消費者の理解を得ながら、優先順位をつけた取組を進めていくことが必要である。

そこで、業界団体の協力を得て、企業の枠を超えた商慣習等の改善に関する調査・検討を行い、課題や今後のあるべき方向性を整理し、業界団体の会員企業に取組の輪を広げていくことを目指すとともに、消費者に対する意識喚起を行うことにより食品廃棄物等の発生抑制を推進するための事業を行った。

### (2) 事業の内容

#### ① 商慣習の改善：食品ロス削減のための商慣習検討ワーキングチーム

検討会を開催し、食品製造業事業者及び流通事業者が連携した商慣習の改善等に関する分析・検討を行い、食品廃棄物の発生抑制に向けた商慣習改善の具体的方策の取りまとめを行った。

#### ② パイロットプロジェクトの効果の把握

商慣習関連調査として、「納品期限の見直し・再検討に向けたパイロットプロジェクト」の進捗状況や効果に関して、把握を行った。

#### ③ シンポジウムの開催

消費者および食品関連事業者が食品ロスに対する認識を高め、フードチェーンの商慣習改善の取組を理解・促進していくような環境整備を進めることを目的に、事業者と消費者が参加するシンポジウムを開催し、検討会や商慣習関連調査で得られた具体的知見・取組成果について意見交換を行った。